

2014年9月の供給レポート

繊維業界と木材業界のコラボ

－ 木糸の魅力 間伐材使用



「木糸（もくいと）」とは、間伐材を使用してできた糸のことです。間伐材と麻（強度性に着目）を半分ずつ使用した木糸を製作しています。

（2014年8月5日 東洋木材新聞記事から抜粋）

一園一室木のぬくもり推進モデル事業



大阪府が平成25年度からスタートした「一園一室木のぬくもり推進モデル事業」。採択された保育園は13園。補助金は一園あたり定額80万円で、おおさか材使用が条件。平成26年度も府の継続事業として現在募集中です。

（2014年8月5日 東洋木材新聞記事から抜粋）

食洗機の火災53件 － 2008～2013年度

長期使用で部品劣化



食器洗い乾燥機の発煙・発熱事故が2008～2013年度に91件あり、うち火災が53件起きていたことが、独立行政法人製品評価技術基盤機構への取材でわかりました。部品の経年劣化などが原因です。

（2014年8月12日 日本経済新聞記事から抜粋）

琵琶湖のヨシ 緑化パネルに — 滋賀のNPO開発

耕作放棄地のコケも活用



琵琶湖に生育するヨシと、耕作放棄地で育てたコケを使った緑化パネルを、滋賀県で活動するNPO法人が開発しました。

建物屋上などに設置し、温暖化ガスの削減や室内温度の上昇を抑えることを目指します。

(2014年8月19日 日本経済新聞記事から抜粋)

平成26年度一園一室木のぬくもり運動 — 大阪府

大阪府木材連合会が基金設置



本事業は、府下1200の保育園のほとんどがビニールに囲まれ、一室だけでも木を使い、園児たちの不健康な環境を改善するためにスタートした運動です。初年度は13保育園に補助金を交付しました。

(2014年8月20日 東洋木材新聞記事から抜粋)

針葉樹合板の減産継続 — 9月15%

セイホクと林ベニヤ産業



針葉樹合板のメーカーが相次いで減産の継続を決めました。7～8月に前年比1～2割の減産を実施していますが、9月も約15%減産します。

針葉樹合板のメーカー出荷量は、4月以降に減少しました。5月、6月はともに前年同月比2割弱減っています。

減産による需給の引き締めを続けます。価格は、6月に前月比5%下落した後は横ばいが続いています。

(2014年8月23日 日本経済新聞記事から抜粋)

建材高、実体経済に影 — マンション発売減

セメント3年ぶり値上がり



建設資材や人件費などの上昇が、マンションなど建物価格に波及しています。

野村証券の調査では、マンションなど建築物の建築着工単価は、今年6月で1m²あたり185,600円。1年前に比べ9%高くなっています。建設コスト上昇が、マンションの発売減や工事の入札不調を招くなど、実体経済に影響を落としています。

(2014年8月26日 日本経済新聞記事から抜粋)

針葉樹合板の生産量8%減 — 7月 出荷は増える



針葉樹合板の国内生産量が、2年半ぶりに減少しました。7月の国内メーカーの生産量は213,307m³で、前年同月と比べ8%減りました。

合板工場の7月末の在庫量は、前月比6%増。出荷量は、前月比12%増えるなど回復の兆しもあります。

(2014年8月26日 日本経済新聞記事から抜粋)

